

令和5年2月27日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立荒子幼稚園長
溝口 弘

令和4年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点 (主題)	幼児の主体性を育む環境の構成	I・II
-------------------	----------------	------

1 実践のねらい

幼児が園生活を通して、自ら周りの環境に関わり、試行錯誤を繰り返しながら心を動かして主体的に遊んでほしいと願う。そのためには、幼児の遊びの姿からその時期にどのような経験を積み重ねることが必要かを明確にして、意図的かつ見通しをもって計画的に環境を構成していくことで、主体的に遊ぶ幼児を育てたいと考える。

2 実践のねらいに迫るための手だて

- ・ 幼児が心を動かし、主体的に遊びだすための意図的な環境の構成をする。
- ・ 保育ドキュメンテーションを活用した研究保育や事例検討により話し合いを深め、課題を共有し、主体的に遊ぶための環境の構成の工夫や職員間の連携を図る。
- ・ 保育ドキュメンテーションを毎週配信したり保育後にコミュニケーションをとって話す機会を作ったりして遊びを通した育ちを保護者に伝え、連携を図ることで保育の充実につなげる。

3 実践の内容

- ・ 幼児の心が動き、主体的に幼児が動き出すためには、日頃から幼児理解に努め、発達の見通しをもち、どのような経験を積み重ねるとよいかを明確にして指導計画を立て実践する。
- ・ 努力点研究会において、保育ドキュメンテーションを活用して紙面だけでなく同じ場面を写真や動画などの視覚でも共有しながら話し合いを進め、様々な意見を出し合うことで課題を明確化し、その後の環境の構成の工夫や教師の援助につなげた。
- ・ 保護者に向けて、園の取り組みや幼児の姿を、毎週保育ドキュメンテーションで配信したり懇談会や保護者会、掲示物等で伝えたりして、園教育への理解を図った。

4 成果と課題

- ・ 1学期実践の課題としてあがった、担任と担任外教諭のコミュニケーションを図る手立てとして、2学期は『週案の見える化』と『職員間の連携強化』に取り組み、職員間で週案を基にした各学級のその週の環境構成や計画、次週以降の予定を示した<予定表>（職員室の全員がよく見える場所に掲示したホワイトボード）の導入を行った。その結果、職員同士の風通しがよくなり、様々な意見を出し合って保育環境を工夫することで保育内容も充実してきた。
- ・ 保護者アンケートでは、園の努力点に対する取り組みについて尋ねた項目で「よくあてはまる」と回答した割合が86.5%であった。保育ドキュメンテーションの配信も写真の掲載により、分かりやすく読みやすいとの評価をいただいた。
- ・ 今年度は、学校評議員をはじめ来賓の方に運動会や生活発表会を参観していただいたり、学校評議員会時に保育環境や幼児の姿も見ていただいたりすることができた。その中で「遊びを大切にされた教育ですね」とご感想を得ることができ、少しずつ幼児教育が遊びを通しての育ちであることにご理解をいただいた。来年度も教育内容を分かりやすく伝えていくことに努めたい。

5 来年度に向けて

荒子小学校との併設園である特徴を生かし、保護者や学校評議員の方にも好評であった保育ドキュメンテーションを小学校にも情報発信し、園教育の取り組みを知ってもらえるようにしたい。